

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います。

まほろば



2011.1
第114号

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年も重苦しい空気に包まれた1年でした。経済の低迷・政治の混迷は相変わらずで、猛暑の記憶も生々しく残っています。そんな中で、数少ない明るいニュースの一つが「はやぶさ」の帰還でした。プロジェクトマネージャーの川口淳一郎氏が弘前市出身ということもあり、一層の感動を覚えました。

さて、これまで、延び延びになっていた新病棟の建築も、ようやく昨年8月に工事が始まり、7月には竣工の予定です。より快適な入院環境を提供できる事と思います。ただ、外来・管理棟は旧来のまま残るため、新病棟とのアンバランス・アクセスの不便さが増すことになりそうです。このため、外来・管理棟の改築も必要であり、今年はその道筋をつけたいと考えています。弘前病院の経常収支は4年連続の黒字ですが、来年からは借入金の返済も始まるため、一層のふんぱりが必要となります。

また昨年7月からDPC準備病院に参加しています。2年間の診療データの提出を経て、DPC対象病院となることが可能となります。この1年、平均在院日数は15日まで短縮しました。医療の効率化は喫緊の課題ですが、医療の質向上と患者視点の尊重も重要です。病診連携をさらに進めると共に、DPCの理解を深めていきたいと思います。

医療を取り巻く環境は先行き不透明ですが、安全でやさしい医療の提供を第一に、地域の皆様に信頼され満足していただける病院をめざし努力していきます。本年も弘前病院をよろしくお願ひいたします。

2011年が皆様にとって良い年になることを願っております。



病院長：佐藤 年信

これぞ伝統文化　－狂言弘前特別公演－



去る12月12日(日)、弘前市民会館において、弘前城築城400年祭記念事業「狂言弘前特別公演」が行われました。出演は、人間国宝の野村万作さんと、NHKの「にほんごであそぼ」や映画「陰陽師」等で



お馴染みの野村萬斎さんの親子、他の皆さん。演目は祝典曲「翁」から「三番叟(さんばそう)」、智(むこ)狂言の「二人袴」でした。会場に詰めかけた1,400人の観客の中には着物姿の女性も多く、舞台に釘付けの約2時間の公演時間はあつという間でした。

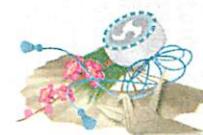
公演に先立ち、まず野村萬斎さんから「狂言」とは「滑稽な人間の姿を写した寸劇」で「筋も単純、分かり易い」とのお話や、演目についての楽しくも詳しい解説がありました。良く通るお声とすっとした立ち姿は、さすがの存在感でした。

野村万作さんが舞いあげた「三番叟」は、お正月や特別な祝いで演じられるもので、五穀豊穣を祈る舞だそうです。前段の「揉みの段」は、「おおさえ、おおさえ、おお、喜びありや」と謡いだし、小鼓(こづみ)・大鼓(おおづみ)・笛の演奏に合わせて足拍子を踏む力強い舞。その後、「黒式尉」の黒い面をつけ、千歳(せんさい)から鈴を受け取って後段の「鈴之段」となります。種を播くかのように鈴を振り、大地を踏み固めるかのように足拍子を踏み、徐々に早くなる囃子に合わせ、まるで螺旋を描いて昇りつめていくような躍動感溢れる舞。

80歳になろうかという年齢を微塵も感じさせない、それでいて長年演じてこられた方だからこそ深いある舞でした。

野村萬斎さんは、叔父の野村万之介さん、甥の野村遼太さんと共に、結婚後初めて妻の実家に挨拶に行く智入りの日を描いた「二人袴」の父親役を実に楽しく演じられました。智入りに行かなくてはならない智は、一人では心細いからと父に付き添いを頼み、父は舅の待つ家の前で長袴を智に着けてやり、自分は門前で待ちます。そこを舅の従者である太郎冠者に見つかってしまい、座敷へと招かれます。しかし、祝儀の場に着用すべき長袴は一人分。最初は門前で急いでさきかえて、交代で舅の前へ出ていた二人ですが、二人一緒にと言われてしまいます。袴を前後に引き裂いて、前掛けのように身につけて座敷へ通りますが、舅に三人連舞を望まれてとうとう袴の後ろがないと知れてしまいます。そこに至るまでのそれぞれの対話や所作が笑いを誘い、狂言の魅力はまさにこれだなあと感動しました。

弘前城築城400年の2011年。今年は狂言に引き続き、弘前公園内を会場に「弘前城薪能」も開催されます。実に楽しみです。今年も、皆様にとって尚一層良い一年になりますように。



入院係：工藤 真淑

医療機器購入状況のお知らせ

平成22年度医療機器等購入を4月から始まり、現在までの状況をお知らせします。

4月は、看護必要度システム(看護課)。

5月は、バイポーラ(手術室)、

小児用人工呼吸器(NICU)。

6月は、心電計(検査室)、医用テレメータ(西1)、ビデオスコープ(耳鼻科)。

8月は、麻酔ガスユニット(手術室)。

9月は、ビデオスコープ(救急外来、呼吸器科)、顕微鏡(検査室)。

10月は、超音波診断装置(消化器科)、

無影灯(手術室)、保育器2台(母子)、

内視鏡システム2台

(外科・整形外科、

耳鼻科・泌尿器科)。



11月は、医用テレメータ(東2)。

12月は、温玲配膳車(栄養)、

そして注目の64列CT(放射線科)。

1月は、ビデオスコープ(消化器科)を購入します。

更に、青森県から地域周産期母子医療センター設備整備費補助金を受け、母子センターの充実を図るため、次のとおり医療機器を購入しました。

10月は、小児用人工呼吸器。

11月は、小児用人工呼吸器2台、新生児用人工呼吸器、脳機能モニタ、保育器、パルスオキシメーターネットワークシステム。

12月は、超音波診断装置3台です。

現在、弘前病院病棟建替整備を行っていますが、これに伴う医療機器を前倒して、今年度購入しました。

12月は、分娩台、胎児集中監視

システム、生体情報モニタ

リングシステム、無影灯

4台、シーリングペン

ダント10台(母子)。



検診台、超音波診断装置(婦人科病棟)。

手術室モニタリングシステム(手術室)。

超音波洗浄装置3台、高圧蒸気滅菌装置

3台、酸化チレンガス滅菌装置(中材)。

1月は、無影灯(手術室)、ベットパンウォッシャー

6台(各病棟)、電話交換機システム。

2月は、ネプライザユニット(耳鼻科病棟)、手術用手洗装置2台、血液ガス分析装置(手術室)です。

今年度、数多くの医療機器を新設、増設、更新しました。“患者さんに喜ばれる医療・病院”を目指す弘前病院の益々の発展のためにも、年度計画で順次、機器の更新を行っていきます。

経営企画係長：椿谷 貢

先日、ふと。。。栄養管理室から



先日、とあるお寿司屋さんで、店内に掛かっていたのれんに感銘を受けました。

それは、商売についてのウンチク語録でした。

詳細は割愛し、一部分を要約させて頂きますが、商売とは「笑売」→「勝売」、「傷売」

→「消売」という内容でした。「ムムッ」と唸らされ、自分の仕事に当てはめてみたところ、

『患者さんに対して』の栄養指導は?

「営養」：実生活に即した指導をしているか？

「銳養」：結果を求める過ぎて鋭く責めていないか？

「英養」：横文字(専門用語)ばかり並べてないかな？

「永養」：ながく実践できる内容を示してますかな？

「映養」：指導内容がどのように反映してますか？

ふりかえってるか？

「影養」：常に患者さんと同じ目線で、出過ぎず、下がらず影のように徹してますか？

新たな年を迎え、新病院スタートを踏まえ、改めて患者さん中心の(不)良自分でありたいと襟を正す所存であります。みなさんの決意や抱負はいかがですか？

栄養管理室長：篠島 良介

[シリーズ医療安全のとりくみ⑧] 患者様の人権と安全が第一

受託研究管理室では、臨床試験(治験)を推進し医療の発展に貢献することを理念に掲げ、新薬を待ち望む患者様の要望に応える一助として活動しています。

治験は最先端の治療を受ける大きな機会となります。研究的な側面をもち合わせているため、患者様の人権や安全が最大限に配慮されなければなりません。そのため、治験は厚生労働省が定めた基準に従って行われます。

私たち受託研究管理室スタッフにとって医療安全とは、まさに「患者様の人権と安全が守られること」です。そのためにこの基準を守り、治験を実施するために決められた計画書に則って日々の業務を行なっています。治験参加については十分な説明を行い、患者様が納得し自発的な意思による同意によって行っています。また、患者様の訴えや症状などに注意し、関連部署と情報を共有し連携をとりながら行なっています。

患者様が治験への参加をとおして、社会的貢献をしたという思いを持たれるように、私たちも気を配つていきたいと思います。



受託研究管理室 リスクマネージャー：奈良岡貴代子

『クリスマスおゆうぎ会』

12月12日(日)風の子保育園のホールで「クリスマスおゆうぎ会」を行いました。

19名の園児が舞台狭しと、日頃の頑張りを父母・祖父母に発表しました。

お揃いの黄色いシャツを着て、「怪物くん」になりきって、踊っている姿がとってもかわいい1~2歳のたんぽぽ組。

映画「天使にラブソングを」の挿入曲「Oh Happyday!」をノリノリでうたって踊った3~4歳のぱら・ちゅうりっぷ組。劇「大きなかぶら」では、大きなかぶらをみんなで力を合わせて抜き、楽しく演じていました。

今年大ブレイクの「アイドルAKB48」になりきっての軽やかなリズムステップや、プリキュアポーズで元気に目を輝かせながら踊っていた5~6歳のゆり・ひまわり組。

プログラム終了後、ひと足早いサンタさんの登場に子どもたちは大喜びでした。

12月15日(水)は、病院の職員、入院されている患者様の前で「みなさんを元気づけるために慰問に来ました」と、大きな声で挨拶をし、おゆうぎ会同様かわいいプリキュアのダンス他、チビッコサンタのヒゲダンスや、袴姿に扇子を持って堂々と「柔」を踊り、たくさんの拍手をいただきました。

最後に、子どもたちは笑顔で会場のみなさんと一緒に伝承遊びのうたと手話で「赤鼻のトナカイ」をうたい、楽しい時間を過ごすことができました。

ご協力ありがとうございました。

風の子保育園 園長：諏訪 栄子



新病棟建替え工事状況のお知らせ(第3回)

今回は弘前市役所建築指導課による中間検査受検について報告します。

中間検査とは、阪神・淡路大震災時の建物崩壊事例の検証結果から、施工業者の施工状態が悪かったという反省により、建物の安全性を確認するため国から認可を受けた機関(当院の場合は弘前市役所建築指導課)が、柱・梁・壁・床等の鉄筋の本数や部材の断面寸法が適切に施工されているかどうかを1階立上がりの工程になつたときに実施するものです。(ちなみにそれ以前は、建築士(又は、資格はないが構造設計の知識のある人)が検査していました。)

当院の中間検査は、コンクリート打設設計画を3工区に分けましたので12月28日、1月27日(予定)、2月1日(予定)の3回実施されます。

12月28日に受験した検査では、1工区目のすべての柱・梁・壁・床の鉄筋の本数、鉄筋の間隔、それぞれの部材断面寸法の確認はもちろんのこと、敷地境界線からの建物の距離、柱間の距離、1階の階高の測定を受けました。またそれ以外に、杭工事・基礎工事・

1階柱及び壁の施工状況写真も提出し確認して戴きました。

私自身、中間検査受検の立会いが初めてでしたので、ここまで細部に至るまで検査をして戴けるとは思っていませんでしたので、とても参考になりました。



現在の工事進捗状況は、前述したことでもお分かりのように、1階立上がりコンクリートの打設を2月上旬になるよう、大雪の中懸命に頑張っております。

営繕専門職：三上 勝栄

【シリーズ医療安全のとりくみ⑨】

東3病棟における医療安全の取り組みについてご紹介します。昨年度から継続し、行っている取り組みとして、月毎の医療安全標語の作成と、毎日のスタッフ全員での標語の復唱があります。標語の作成は、毎月、月のはじめに病棟の医療安全チームのスタッフが、前月までに出されたヒヤリハットの中から注意、喚起する必要を感じた内容のものを選び、相談して作成しています。印刷したものを毎朝、ミーティングの際に全員で復唱します。

また、パソコンのスクリーンセイバーにも色々な標語が流れています。4月「処置、検査、注射の時は

東3病棟における医療安全の取り組み

針捨てボックス持参して、針刺し事故を防ぎましょう。」5月「ADLをしっかりと把握。適切な移動の介助を行って、転倒転落を未然に防ごう。」6月「麻薬の内服マニュアル守り、立ち去る前に、飲み込み確認。」などです。

医療安全への意識を高め、安心・安全な看護を実践できるようがんばっています。

6月 標語

麻薬の内服

マニュアル守り

立ち去る前に

飲み込み確認

東3病棟 リスクマネージャー：藤田裕子

外来診療一覧

◆外来医師診療一覧表 (2011年1月4日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器科		人見 博康	人見 博康	人見 博康	人見 博康	人見 博康
呼吸器科		山本 勝丸	中川 英之	中川 英之	山本 勝丸	中川 英之
		下山 亜矢子	下山 亜矢子	下山 亜矢子	下山 亜矢子	下山 亜矢子
消化器・ 血液内科		太田 健	週毎に交替で担当 ①吉谷／松木 ②松木／太田 ③太田／吉谷	太田 健	太田 健	-
		吉谷 元		松木 明彦	吉谷 元	松木 明彦
		佐藤 年信	-	佐藤 年信	-	佐藤 年信
小児科		三上 珠希	野村 由美子	杉本 和彦	野村 由美子	野村 由美子
		杉本 和彦	佐藤 工	三上 珠希	佐藤 工	杉本 和彦
		-	-	佐藤 次生	佐藤 次生	-
外科		田澤 俊幸	高橋 克郎	横山 昌樹	横山 昌樹	三上 勝也
		三上 勝也	三上 勝也	田澤 俊幸	高橋 克郎	横山 昌樹
整形外科	午前	柿崎 寛	柿崎 寛	秋元 博之	秋元 博之 大鹿周佐 又は 大鹿周佐	柿崎 寛
		大鹿周佐		大鹿周佐	能見 修也	秋元 博之
	午後	田中 直	佐々木 規博			柿崎 寛
脳神経外科		-	-	-	-	-
皮膚科	午前	熊野 高行	佐藤 正憲	佐藤 正憲	熊野 高行	熊野 高行
		佐藤 正憲	熊野 高行	熊野 高行	佐藤 正憲	佐藤 正憲
	午後	●予約	●手術／検査	●予約	●手術／検査	●予約
泌尿器科	午後	大和 隆	大和 隆	大和 隆	大和 隆	大和 隆
産婦人科		真鍋 麻美	片桐 清一	真鍋 麻美	●妊婦検診 (一般外来休診)	片桐 清一
		柞木田 礼子	小笠原 智香	小笠原 智香		柞木田 礼子
眼科		蒔苗 順義	蒔苗 順義	蒔苗 順義	蒔苗 順義	蒔苗 順義
耳鼻咽喉科		黒田 令子	黒田 令子	●手術 (一般外来休診)	黒田 令子	黒田 令子
		二井 一則	二井 一則		二井 一則	二井 一則
放射線科	診断	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄
	治療	-	-	川口 英夫 (午後)	-	-
女性専用外来			杉本 菜穂子(※予約制／第1・第3火曜日午後診療)			
セカンドオピニオン		-	-	-	今充	-

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

今月の川柳

★川柳募集★ あなたの川柳をお待ちしています。

広報誌編集委員会において投稿されました川柳の選出を行いましたが、今月は掲載まではいたりませんでした。来月号に期待をしております。

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

お知らせ

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。

皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：臨床研究部長 泉井亮

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地

TEL 0172-32-4311

FAX 0172-33-8614

URL <http://www.hosp.go.jp/~hirosaki/>